

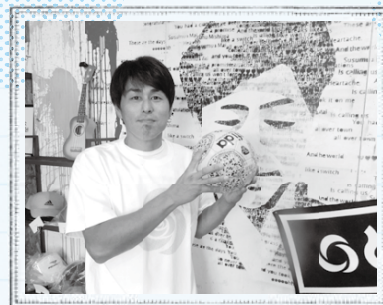
大田市の「ならいごと」特集

じつは小学生向けのこんな教室があるんです

スポーツを始める きっかけを。

「フットサルスクール」

D-JLFC 寺本 祥彦



新しいことへの挑戦

仁摩小学校で年長から小学3年生を対象にフットサルスクールを行っている寺本さん。同じ思いを持つ仲間と、地域を巻き込んで常に新しいことにチャレンジしています。

フットサルスクールを始めたきっかけとは

子ども達にスポーツを慣れ親しんで欲しいという思いから、自身がプレーしていたフットサルなら、気軽にスポーツに触れてもらえると考えスタートさせました。しかしながら、フットサルに縛られないと言っているのがこのスクールの面白いところ。3年生までが通うことができますが、4年生になって、野球や柔道といった他のスポーツを始めるといいと言われ、フットサルをやりたいと言った上級生向けのフットサルスクールに行くのも良い。とにかく競技の種類にはこだわりません。まずは小さなうちからスポーツを身近に感じて欲しい、だけど何のスポーツから始めていいのか分から

らないといった子ども達への、自由な選択を与えてあげられる場なのです。

人と人をつなげる

寺本さんはフットサルスクールだけではなく様々なイベントも考案しています。7月には、大田総合体育館のリニューアルオープン記念事業「大田市ファミリーフットサル交流大会」を企画し、約300人が参加した。盛況のイベントとなりました。寺本さんのチャレンジに終わりはありません。今年の、七夕の日には大田市駅前に、sports shop paraiso(パライソ)をオープン。店名はポルトガル語で楽園を意味します。スポーツを通じて色んな人が出会い、交流できる場にしたという思いでオープンしました。フットサル用品だけではなく様々なスポーツに対応したものを置いています。中高生でも、お小遣いの範囲で気軽に購入してもらいたいと考え、価格設定は抑えめ。たくさんの方に気軽に来てもらえるお店を目指しています。



地域と繋がる。 子どもと学ぶ。

「絵画教室」

Rope 大畑 蘭



子どもと考える時間が大切

ことを決意し、芸術大学へ進学しました。卒業後、映像制作会社で経験を積み、大田にUターンしました。デザインやイラスト制作がメインのお仕事。また地域との関わりをさらに持ちたいという思いから小学生対象の絵画教室をオープンしました。

地域への参加も積極的に

子ども達と一緒に地域へのイベントにも参加します。今年の天領さんでは、大迫力の龍の山車を披露しました。秋の彼岸市「中日つあん」ではオーガニックジュースの販売やスライム制作などを行いました。これらも全て子ども達によるアイデアが元になっています。自分たちがプロセスを組み立てて実行すれば、成功したときの喜び・達成感もひとしおです。

教室を通じて

子ども達にも変化が教室を通じて子ども達にも変化があったと大畑さんは言います。自分の描く絵に自信が持てなかった子ども、「大丈夫できるよ」と声をかけ続けたところ、自信を持って絵を描けるようになったそうです。なんと教室内の年間アワードも受賞してしまうくらい上達したとのこと。驚きですよね。大人も子ども達から学ぶことが多いそうです。ローカルな環境で子どもを育てることは大変だけれど、都会にはないものがたくさんある。自分が探した分だけ見つけると大畑さんは考えます。

生まれ育った町の 活性化をしたい

2017年2月、シヨップ兼ギャラリーをオープンさせた大畑さん(本姓:三谷)。音楽教室を営む両親の影響もあり、感性豊かに幼少期を過ごしました。高校生の頃に絵画の道を進める

絵画教室を営むのは大畑さんとご主人の三谷信介さんです。現在、絵画教室に通うのは大田市内の子も達10数名。子ども達からは「らんちゃん」の愛称で呼ばれており、子ども達との距離も近い様子です。ここでは絵が上手い下手ではなく、楽しんで絵を描いてもらうことを重点に置き、教室を行っています。そして子ども達の考える時間をとても大切にしています。ある日を例に取ると、「オリジナルのお札を描いてみよう」とテーマを決め、どんなお札にしようかと自由に考えます。とてもカラフルなお札、動物が描いてあるお札など多種多様。子ども達のイメージを膨らませるその時間が大切なんだそう。

